

平成28年度 鳥取県西部地区中学校国語教育研究会報告

1 日時 平成28年8月9日(火) 14:00~16:50

2 会場 米子コンベンションセンター(第5会議室)

3 講師 伊木 洋 先生(ノートルダム清心女子大学准教授)

4 研修内容

〈実践発表〉 発表者: 飯塚 洋介 先生(米子市立弓ヶ浜中学校)

単元名: 『作品』としての『表現』を学ぶ～表現を工夫して物語を書く～

※本年度、鳥取市で開催される全国大会での発表内容

- 〈指導講評〉
- ・「書く」だけではなく「読む」ことの学習も含んでいる。加えて図書教育にも関連していることも発表として付け加えてみてはどうか。
 - ・大村はま実践では、いきなり創作に入るのではなく前段に簡単なトレーニングを入れている。
 - ・中3の3学期に学習する必然性はあるのか、もう一度検証を。
 - ・自己評価を効果的に利用したい。

〈講義〉 「国語教室に魅力をもたらしアクティブ・ラーニングの視点を生かして」

①アクティブ・ラーニングの視点による授業改善

- ・問題発見解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ・他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを深める対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ・自らの学習活動をふりかえって次につなげる主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

②国語科におけるアクティブ・ラーニングの5つの視点

- ・生徒が興味を持つ教材題材と魅力的な導入
- ・課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
- ・学習の見通し、本時の目標の明示
- ・自分の考えを発表交流する機会
- ・「できた」「わかった」の実感、ふりかえり

③魅力的な「国語の授業のために」

- ・「話すこと」は話す活動で、「書くこと」は書く活動を通して成立させる。

④自己の内なる問題と向き合う国語教室の創造

- ・生活的な実の場の設定
- ・絶えず問題を発見させる媒材と手引き
- ・自己評価力への配慮
- ・学習のプロセスがそのまま学習力となる営み

⑤実践紹介

講師の伊木先生は、もともと鳥取県西部地区の中学校に勤務されており、長年本研究会を牽引してこられた第一人者である。会員の中にも同じ学校で勤務した教員が多数存在した。現場の状況や悩み・楽しみすべてを把握された上での講義はたいへんわかりやすいものであった。「アクティブ・ラーニング」というトレンドなキーワードを、日々の実践と結びつけていただいた。2学期からの授業がより「魅力的」なものになるよう本研修を生かしていきたい。

